



法華宗信報



信心の かけ橋

法華宗信報 162 号目次

- 2 管長法話 お盆の供養はワンチーム 原井日鳳祝下
- 4 七十五回目の「原爆の日」「終戦の日」を迎えるということ
～広島原爆第五十回忌。あれから二十五年～
- 6 寺院マップ～広島県西部～
- 8 表紙紹介 編集後記

お盆の供養はワンチーム

大本山光長寺貫首

原井 日鳳

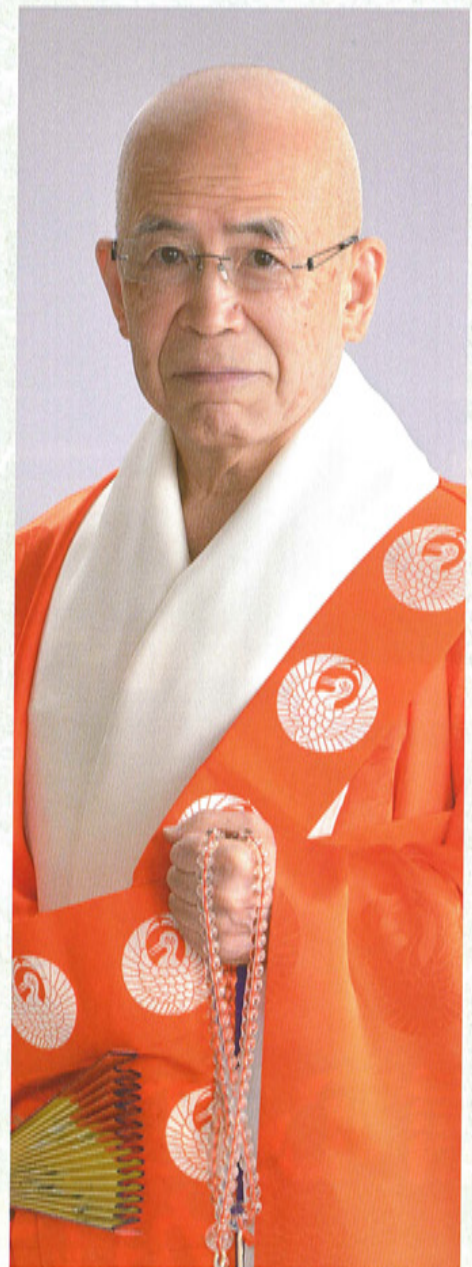
今日でもお盆は日本人の心に特別の思いを懐かせます。例えば年配者はお供え物や墓参り、中年者は盆の支度やおもてなし、若者は新しい出会いや夏祭り、子どもは里の遊びや盆料理。

日本人の寺ばなれ、信仰ばなれが言われておりますが、盆の時期は都会から郷里へ帰省の人々の大移動があります。そしてご先祖様も霊界からこの世へ一斉に帰って来ると信じられています。だからこの世の盆は大賑わいとなるのです。

それではご先祖はどこから帰ってくると考えられているでしょうか。一般には「お墓から」「天国から」「西方浄土から」「霊界から」などがよく言われます。

『阿弥陀経』の教えでは西方十万億土という遙かの世界に浄土があり、極楽という苦のない世界に先祖は往生していると説かれます。

それではご先祖は何故苦に満ちたこの世（娑婆世界）に帰って来る必要があるのでしょうか。『法華経』による教えによれば先祖の靈魂は霊界で修行をしております。霊界は靈魂の修行の場であり、妙法題目の供養を必要としています。その供養が届けなければ靈魂は





苦しむのが道理です。この事は日蓮聖人の『孟蘭盆御書』に詳しく示されております。

お盆の供養は先祖のためのみと考えるとそうではありません。供養の主体の自分自身も「宿業（しゆくごう）」を持っておりまゝから、罪障消滅と申しまして自らの心の垢を取り除く修行が同時に必要なのです。そして同時にできるのです。

霊界は決して手の届かない彼方にあるのではなく、多くの霊と私達は助け合い、励まし合って手を取り合い修行しているのです。共に目指すものは「仏国土」。例えば個人の抱える苦、人々の抱える苦、環境の抱える苦（氣候変動）の一つ一つの改善も、根本は供養から始まります。先祖も私達も「娑婆即寂光」を目

指す存在です。それが「菩薩」です。

ただ「散骨」とか「墓じまい」など終活業者の営業に乗った施主のご先祖様の遺骨・霊魂は霊界に参られず、この世にも安住の籍がありません。顕冥の両界に迷うのみです。だから盆が来ましても無縁の霊となつて善根の施主の供養を待つしかありません。

お盆が参ります。ご先祖や大切な霊を迎え法味と御供物をささげ、家族みんなで供養を致しましょう。「娑婆即寂光」の目に見える一歩を踏み出しましょう。ご先祖様と共に手を取り合つてワンチーム、自利利他の菩薩行に励もうではありませんか。

合掌



七十五回目の「原爆の日」「終戦の日」を 迎えるということ ～広島原爆第五十回忌。あれから二十五年～

間もなく、お盆を迎えます。皆さん、お墓参りやご先祖様を迎えるご準備をされている頃だと思えます。八月六日には「広島原爆の日」九日には「長崎原爆の日」十五日には「終戦の日」を迎え、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて見つめ直す大切な季節でもあります。本年は、七十五回目の「原爆の日」「終戦の日」を迎えます。

昭和二十年（一九四五）八月六日午前八時十五分。広島市の街に世界で初めて原子爆弾が投下されました。また九日午前十一時二分には長崎にも投下され、数多くの尊い命が無差別に奪われ、街は焼け野原になってしまいました。

平成六年（一九九四）に戦没者第五十回忌を迎えるにあたり、十一月二十五日に広島本巡寺と平和記念公園で、「世界平和祈願大唱題行並びに原子爆弾犠牲者第五十回忌追善法要、全世界戦争犠牲者大回向供養」が行われました。当日、午前中は本巡寺において当時の法華宗管長藤田日淨親下を始め、四大本山御貫首、宗務総長、内局各部長及び全国の僧侶と檀信徒の方たちが集まり法要が奉修されました。午後は青年伝道隊、興隆学林生たちが先導をし、千数百名が十二カ所の地点から列を作って、お題目を唱えながら広島市の街を行進し、平和記念公園に集まって大法要が奉修されました。

そこで、当時の中国教区宗務所長岡山松壽寺菊地恵祐上人からお話を伺いました。

「この法要は原爆が投下された広島市の地において奉修させていただくべきだと思っていました。法要が大規模であることから、様々な意見を頂戴しましたが、私としては何としても実現させたい思いでした。当時の広島本巡

寺ご住職であった渡邊文進上人にこの法要のお話しをしたところ、大法要の計画に大変驚かれましたが、多大なご協力をいただき無事に大法要を奉修できました。今思うと、よくあれだけ大規模な法要ができたなど信じられない気持ちでいっぱいです。皆さまのご協力に感謝するばかりです。大事なものは、法華宗の僧侶として供養と祈願をさせていただく気持ちを忘れてはならないということです」と強く語られた。

また、現在の本巡寺住職渡邊守厚上人は、「間もなく七十五回目の終戦の日と原爆の日を迎えようとしております。広島市の街は、多くの人々の絶え間のない努力により現在の姿



みんなで唱えよう
平和への願い

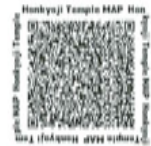
平成四年（一九九二）八月二十五日（金） 広島平和記念公園 追善

主賓 法華宗 住持 中国教区 西院 東海教区 東北教区 千葉教区 東京教区
東海教区 北陸教区 中部教区 大分教区 山形教区 岩手教区 青森教区 秋田教区

本逕寺

〒730-0051 広島市中区大手町 3-13-11

- ・ JR 山陽本線「広島駅」よりバス又は路面電車乗車「市役所前」下車、徒歩 3 分。
- ・ 広島高速「東雲インター」より約 20 分。

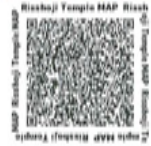


境内墓地にある「供養塔」は、被爆により表面が焼き付いています。

立正寺

〒725-0021 竹原市竹原町 3157-1

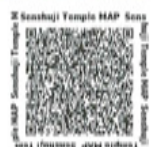
- ・ 呉線「竹原駅」下車タクシー 5 分。徒歩 15 分。
- ・ 山陽道「河内インター」より 15 分。



宣修寺

〒737-2516 呉市安浦町中央 7-1-11

- ・ JR 山陽本線「三原浦駅」より呉線乗り換え「安浦駅」下車、タクシー 5 分、徒歩 15 分。
- ・ 山陽道「志和インター」より八本松、上黒瀬方面、約 45 分



広島県

三原

尾道

愛媛県

寺院マップ～広島県西部～

島根県

広島市

広島城

1589年に毛利輝元によって築城され鯉城とも呼ばれています。しかし原爆によって倒壊。現在は外観を復元した本丸と二の丸、内堀が残っています。内部は博物館となっています。

〒730-0011 広島県広島市中区基町 21-1
TEL 082-221-7512



縮景園

広島浅野藩初代藩主 浅野長晟が 1620 年に別邸に築成した大名庭園です。梅や桜、紅葉など一年を通して四季折々の美しい景観が楽しめます。

〒730-0014 広島県広島市中区上幟町 2-11
TEL 082-221-3620



呉市

呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)

戦前は海軍工廠の町として、戦後は産業港湾都市として栄えた呉の歴史、造船技術や科学技術を紹介するとともに戦艦大和の模型をはじめ回天や零戦を展示しています。

〒737-0029 広島県呉市宝町 5-20
TEL 0823-25-3017



安芸灘とびしま海道

瀬戸内に浮かぶ芸予諸島を、飛び石に見立てた名付けられたとびしま海道は、七つの島をめぐる歴史と風景を楽しめます。

広島県呉市豊浜町豊島 3526 番地 15
(呉市豊浜市民センター内)
TEL 0823-25-3309(呉市観光振興課)



竹原市

大久野島

現在は国立公園に指定され、ウサギ島と呼ばれるほど数多く野生のうさぎが棲息しておりますが、かつては毒ガスの工場がありました。過去の悲惨さと、現在の平穏を感じられる島です。

〒729-2311 広島県竹原市忠海町大久野島
TEL 0846-26-0321(休暇村大久野島)



※『法華宗 中国教区寺院マップ』より引用

表紙紹介

原爆死没者慰霊碑より望む原爆ドーム (広島平和記念公園)

「広島平和記念公園」の中央部にある「原爆死没者慰霊碑」(広島平和都市記念碑)には、広島で原子爆弾の被害を受け亡くなられた方たちの名簿が納められています。この名簿は毎年追加され続けており、令和元年8月6日には合計31万4118名が記されています。

慰霊碑には「安らかに眠ってください 過ちは繰り返しませんが」と刻まれています。

碑文について様々な意見がありますが、皆様の内に自然に浮かんだ心をもって手を合わせて頂ければよろしいのではないのでしょうか。

碑を守るように屋根が作られた特徴的な形は、死没者の霊を風雨から守る思いが込められています。

慰霊碑の先に見える「原爆ドーム」(写真上)もまた象徴的な建物であり、何度も修繕を繰り返し守られてきました。「原爆ドーム」と呼ばれる建物もかつては広島県産業奨励館という商業施設でした。75年前の昭和20年(1945)8月6日午前8時15分この建物から南東160メートル、高度600メートルの位置で原子爆弾が炸裂し、周囲のあらゆる建物は倒壊・焼失しました。しかしながら、ここはほぼ真上から爆風を受けたため奇跡的に倒壊は免れました。原子爆弾の惨状を今に残す「原爆ドーム」の姿は、核の悲惨さと未来永劫の平和のシンボルとして伝え続ける存在です。

園内には、「広島平和記念資料館」、「嵐の中の母子像」(写真中)、「原爆供養塔」(写真下)をはじめ、いくつかの被爆資料・慰霊碑・供養塔等があります。

この「広島平和記念公園」は世界に戦争の悲しさ、原子爆弾の恐怖や非人道性を伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う場所です。

皆様ぜひ訪れていただき、無差別に多くの命を奪った戦争・原子爆弾の悲惨さと平和の尊さを心で感じていただき、戦没者の供養と平和への祈りを捧げていただければ幸いです。



「原爆ドーム」



「嵐の中の母子像」右手でしっかりと乳飲み子を抱え、左手でもう一人の幼児をかばいながらどんな困難にも耐えつつ前に進んで生きていこうとする母親の姿を表す



「原爆供養塔」円形の土盛りの中に納骨堂があり、身元不明や一家全員が犠牲になり引き取り手のないご遺骨を納めている。

編集後記

この度の新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。今回の「法華宗信報」より編集部が北海道教区から中国教区に移りました。テーマを「信心のかけ橋」とさせていただきます。宗祖日蓮大聖人の本門八品上行所伝の御題目の信心。つまりは我々法華宗の信心を過去から現在へ、そして現在から未来への「かけ橋」になるような紙面作りを目指してまいります。

今号では、今から約二十五年前に行われた広島原爆第五十回忌のことや、寺院マップも広島県(西部地区)を紹介させていただきます。皆様が安心して外出出来るようになった時には、広島へ特に平和記念公園を訪れてみてください。

これより三年間、私を含め十四名が中心となり編集作業をすすめてまいります。特に今回編集作業を進める中、緊急事態宣言が出る等で取材・編集会議等外出したり人が集まることが難しくなり、初めてのWEB会議に挑戦したり等、奔走しながらも無事に発行することが出来ました。これも偏に原稿・取材に御協力いただきました、原井日鳳閣下をはじめ皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。

殆どのメンバーが編集未経験ではありますが、編集員を中心に中国教区一同ワンチームで頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

圓成昭龍

法華宗信報

NO.162

令和2年7月1日発行

編集部/〒701-4302

発行所/〒103-0013

印刷所/(株)創文社

発行人/二瓶海照

編集人/圓成昭龍

岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓 3194 本蓮寺内

TEL0869-34-2014

東京都中央区日本橋人形町 2-19-1 法華宗宗務院

TEL03-5614-3055 <http://www.hokkeshu.or.jp/>

